

大町病院だより

第21号

2010年
(平成22年)

1月15日

《病院理念》私たちは、温かな心の通う医療を提供する病院を目指します。

〒398-0002 長野県大町市大町3130 市立大町総合病院 電話 0261-22-0415



市立大町総合病院
事業管理者
赤羽 賢浩

明けましておめでとうございます。

本年が、皆様方にとりまして充実した良い年でありますようお祈り致します。

今回の「大町病院だより」は、昨年、平成21年9月から12月にかけて、大町市内、白馬村で開催させていただきました「地域懇談会」、「健康づくりセミナー」、「自治会長研修会」で取り上げました「市立大町総合病院の危機」に関する講演内容のまとめと、主なる対話内容、地域懇談会で実施させていただきましたアンケートの集計結果のまとめを掲載させていただきます。

全国各地から、自治体病院を主とした地域の中核病院が破綻し、地域医療が崩壊する姿が数多く報道されています。大町病院も決して他人事ではありません。今回の対話集会から、「大町病院を崩壊から守る事が、大北地域の地域医療を守り、大北地域の崩壊を防ぐことだ」と改めて意識させられました。寄せていただきましたご意見を参考に、大町病院も尚一層の意識改革に取り組んでまいりますので、よろしくご支援をお願い申し上げます。

特集：市立大町総合病院を破綻から守るために

市立大町総合病院の 窮状とその対応

病院事業管理者 赤羽 賢浩

大町病院は、長野県下では最も歴史の古い自治体病院で、最盛期の平成10、11年には常勤医師が27名在職し、病院事業収益も48億円を超える収益をあげておりました。しかし、新臨床研修制度の影響などで、信州大学からの常勤の派遣医師が徐々に打ち切られ、耳鼻咽喉科、眼科、脳神経外科が非常勤体制に移行したのみならず、内科、外科の常勤医師も削減され、平成20年度には常勤医師は17名に減少しました。特に、病院医療の根幹をなす内科医は最盛期の8名から一時は3名に減少し、診療制限をせざるを得ない状況に追い込まれました。

長野県下の他の自治体病院に比較しますと、大町病院の医師1人あたりの入院患者数、外来患者数はダントツに多くなっておりますし、透析患者数や透析回数は確実に増加し、手術件数、分娩件数も増加しており、残された医師の勤務は益々過酷になってきております。

しかし、常勤医師数の減少につれ、入院総患者数・外来総患者数の減少は如何ともしがたく、病院事業収益も平成20年には37億6千万円に減少し、収益的収支は平成19、20年と3億数千

万円の赤字を計上することとなってしまいました。今までコッコツと貯めてきた現金預金も平成17年をピークに減少に転じ、このままの状態が続けば、数年後には不良債務の発生も危惧される状態に陥っています。大町病院の医師不足は、従来、医師の派遣をほぼ全面的に信州大学に頼ってきたおり、独自の医師確保のための自助努力、研修医の募集に熱心でなかった結果や新臨床研修制度の影響もありますが、特に、内科医の減少には、専門医制度（後期臨床研修制度）の影響が大いように思います。大町病院は研修施設として登録されている診療科が少なく、後期臨床研修医が集まらない理由の一つになっており、今後の改善が必要であると感じております。更に、最近では、大町病院のような中小病院でも、専門医の集約化・拠点病院化が進められており、松本、長野から遠く、高速道路も新幹線もない地域ほど拠点病院からはずされる傾向が強くなってきており、その影響も少なくないように思います。

しかし、「地域中核病院の破綻」は、開業医が頑張っって何とか維持している「地域医療」を崩壊させ、地域そのものを崩壊させます。大北地域には6万人以上の住民が住み、更には、日本有数の観光地である北アルプスを控え、夏場、冬場には、一時的にせよ、住民数に倍する人々が北北地域に集

うこととなります。公的病院としては、彼らの急病や外傷にも対処せざるを得ないと考えます。

大町病院を破綻から守ることが、大町地域を守ることに繋がります。大町病院で出来る診療行為には全力で努力を致しますので、是非、大町病院をご利用下さい。大町病院の機能を越えた疾患につきましては、適宜、他の大きな病院を紹介させていただきますし、急性期を過ぎた患者さんは出来るだけ早期に引き取るように致します。また、併せて医師確保のための情報を寄せていただくことをお願い申し上げます。

地域の医療を皆で守る



外科 科長 哲
高木

9月から行ってきた各地における対話集会には、毎回50人から100人位の方に来ていただき、大町病院の現状について知ってもらい、お互いの考えをぶつけ合う事ができました。後半の集会で私が主に訴えたことの一つは、対話による住民の理解と病院内の改革を、車の両輪として同時に行っていく必要があるということです。

もう一つは、地域のための病院として、地域を守るために大町病院を存続させる必要があること、そしてそのためには、お互いがお互いを家族と考へ、住民は病院を育てていかなければいけないし、職員は患者さんに接していく必要があるという事です。そうすれば、誹謗中傷は減り、住民が病院作りに参加するようになり、また接偶に関するクレームも減るのではないかと思います。住民全体が大町病院の問題に関心を持ち、一緒になって大町病院を作って行きましょう。

地域医療を支える

医師は地域で育てる



医療安全部長
新津 義文

1. はじめに

私は09年5月1日から市立大町総合病院に勤務している内科医の「新津」といいます。私は大町市に生まれ育ち、都内の大学を卒業後、長らく首都圏の病院に勤務していました。今後は自分の身の振り方を考えた時に、一度は故郷に帰って人々の役に立ちたいと思っていますので、大町病院

の厳しい現状を耳にして帰ってきました。

2. 大町病院とそれを取り巻く現状

今までの大町病院は、長らく信州大学から医師が派遣されており、自分たちで努力をしなくとも、自然と医師が充足されていましたが、今や信州大学自体に新しい医師が集まらなくなってきました。そのために、大町病院に医師を派遣できなくなり、内科を中心として深刻な医師不足となってしまう。今後は大学病院からの医師の派遣は、一部の診療科を除いて期待できないことが予測されます。さらに、病院独自で医師を探してはいますが、大町市自体が辺境の地となってしまうのでなかなか医師が来てくれない状況です。

3. 医師が来るようにするには どうしたらよいか

一つは医師が来てくれるような魅力のある地域、病院にしていけないといけない。住民に頼られる病院にしていけないといけない。そして地域住民に向き合って、住民が参加する病院にしないといけない。

二つ目は、医師がいけないのならば、この地域で一から医師を育てることが重要であると考えます。そのため、「地域の医療を支える医師は、地域ぐるみで、地域で育てる」という認識を

われわれ医療関係者のみならず、市民の皆さんが持つことです。私は昨年の5月に着任以来、この大町病院で医師を育てて行くことが重要であること、若い研修医が来ることで病院が活性化すること、大町市で医師を育てることで大町市に愛着を持つ医師が定着すること、などを訴えてきました。

4. 私達の決意

市立病院がなくなれば、多分、大町市自体が危機に陥ることになると思っています。私は、今後も若い医師を獲得するために努力する所存です。病院の医師、職員が住民と一体となって、この地域の医療を守るために努力しないといけません。



地域懇談会・健康づくりセミナー・講演会 アンケート集計結果

今回のアンケート結果を取りまとめ、多くの皆様から頂戴したご意見を、院内各部署で真剣に考え、主要な意見ごとに取りまとめましたのでご覧ください。

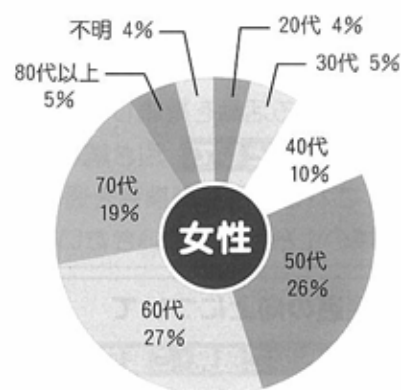
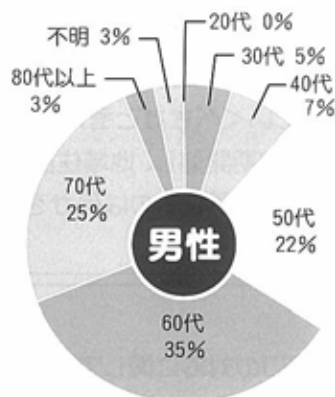
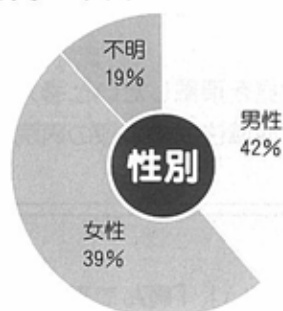
アンケート集計

■地域懇談会等参加総数 567名（アンケート配布数 468枚）

■アンケート回収総数 286枚

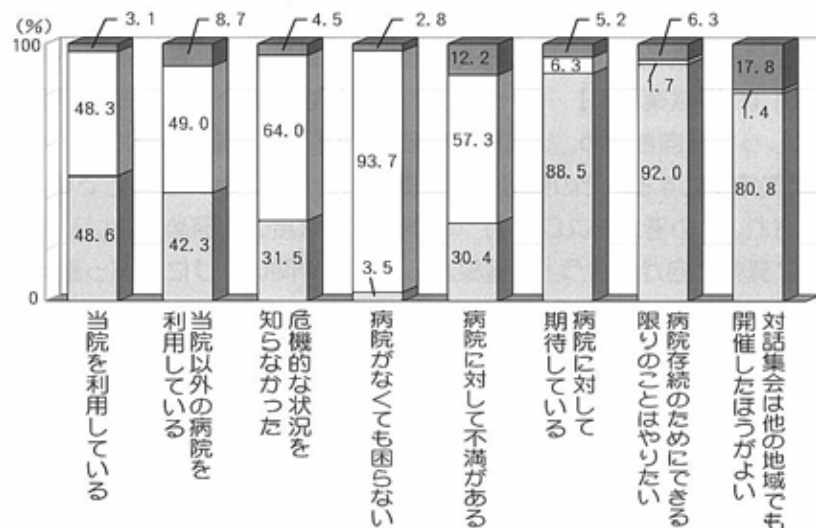
■回収率 61.11%

■性別及び年代



■アンケート回答

□ はい □ いいえ ■ 記載なし



◎なぜ他の病院を利用しているのですか？
(回答数複数回答あり)

専門医がないから	41
大町病院より良い医療が受けられると思ったから	24
病院に知り合いに会うのが嫌だから	1
接遇や待ち時間	11
開業医からの紹介・救急搬送など	6
近隣の診療所等	20
交通事情	2
その他（検診等）	10
無回答	29

●職員の意識改革について

皆様からのご意見・ご要望 職員の意識改革があれば受診をしたい。職員の皆さんの意思統一を図れば、きっと病院は変わるはずですし、それを望みます。患者から「大町病院は変わったよ」「いい病院だ」と言われるようにすることが一番大事だと思う。大町病院を親切で魅力ある病院にして欲しいと思う。

職員の意見

◎病院で働く私たちが、最初に考えなければならないことは、「不安を抱いて来院した患者様に対して安心感を与える」こと。そして、そのことに職員自らが「気づく」ことができる感性を養い、より高い医療レベルをめざす組織づくりが必要と考えます。

◎職員は病院当局への不満ばかりを並べるのではなく、職員自身が「どのような改善策が効果的か」を考え、そのために「自分は具体的にどんな行動をするか」という当事者意識を持つことが必要と考えます。

病院の対応として 病院が組織として患者様だけではなく、職員や病院を取り巻く全ての関係者に優しく思いやりをもって接することが必要だと考えます。職員が「大切にされている」という自覚を持てば、患者様や同僚を大切にすることができ、院内のチームワークも良くなり、活き活きと楽しく働ける職場環境が形成されと考えます。そのような大町病院であれば、患者様も信頼して受診していただくと確信しております。そして、職員が「大切な家族に大町病院を勧めたい」と思えるよう、職員が自ら誇れる職場となるための職場環境の整備に努めていきたいと考えております。

●地域懇談会の開催について

皆様からのご意見・ご要望 病院医師等が病院から出て、地域住民と意見交換することは、この地域では画期的な取り組みだと思います。今後も是非、このような意見交換の場を引き続き設けて欲しいし、住民の意見を吸い上げる場所等を設けて欲しい。

職員の意見 地域住民の皆さんの熱い想いが強く感じられました。地域住民の皆さんがこれだけ大町病院の将来を真剣に考えてくださっている。住民の皆さんの信頼を取り戻せるように、真摯に真剣に取り組まなければいけません。病院の方向性やビジョンを住民の皆さんと共有するため、地域懇談会や全戸のアンケート実施等をはじめとする活動を継続し、内容も全公開していくべきだと考えます。

病院の対応として 引き続き、地域懇談会を定期開催し、地域住民の皆様のご意見を頂戴したいと考えております。これらの意見交換会を通じて、大町病院に必要なものは何かを真剣に考え、地域住民の皆様の病院としての地域の土台を作っていきたいと考えております。

●接遇の向上について

皆様からのご意見・ご要望 看護師や受付窓口の対応に関して「全般的に接遇が悪い」、「病んで来院する患者に対して温かみがない」という意見が多い。反面、「親切に対応してもらった」という意見もあり、「一部の職員の対応が全ての対応としての印象になっている」という意見もありました。

●病院の対応として

◎看護職員全員に対しては「フィッシュ」という概念を用いて、2年前より副看護師長を中心に顧客満足の向上に努めております。「フィッシュ」とは、①【仕事は楽しく】………楽しくなければ仕事の効率や効果が上がらない。②【相手に真剣に】………相手にしっかり向き合う。③【態度は自分で選ぶ】…優しい気持ち、元気な気持ちは、自分自身や患者さんを幸せな気持ちにする。その態度を選ぶのは自分自身。という考えです。この考えは、どんな場所、どんな時でも発揮され、この考えをスローガンに看護部では接遇に努めてまいりました。その中の一つである「相手（患者様）に真剣に向かい合う」患者様からの質問や問いかけには真っ直ぐに顔を向け、眼を見てお話をします。患者様としっかりと向き合う等の指導をしてまいりました。また、頂いたご意見等は現場に反映し、一つ一つの事例として、直接本人に指導すると共に、看護職員全員の問題として周知してきました。

しかしながら、全員が直ちに变化することは難しいため、引き続き、「継続は力なり」と捉え、きめ細かく、「気配り目配りできる看護師」の育成に努めて参ります。

仕事を楽しめ、看護という仕事に誇りを持って働ける職場づくりに皆で取り組んでいるところです。そのことが、ひいては患者様への対応の改善に繋がると考えております。皆様の貴重なご意見を参考にし接遇の改善に努めて参ります。（看護部長）

◎接遇に関しては病院全体で取り組まなければいけない重要課題であると考えています。まず、病院全体としての接遇に対する理念を職員全員が共通認識し、その上で接遇改善に取り組みたいと考えております。患者様やご家族の不安解消のため、積極的に質問を受け、十分な説明を提供し、不安の解消に向けた取組みを行いたいと考えております。

また、会計時間の短縮に関しましては、12月1日からのオーダーリングシステム導入に伴い、会計待ち時間が短縮されるよう鋭意努めておりますが、さらに操作の習熟を図りながら、質の向上に向けた努力をして参ります。また、入院会計はどうしても時間がかかってしましますが、患者様のご都合により、会計が間に合わない場合は、後日会計を連絡させていただくなどの個別対応をとらせていただきます。（医事課）

●病院の広報活動に関して

皆様からのご意見・ご要望 大町病院便りは大町市内にしか配布されていない。大町以北の住民にとって、大町病院は最も近い総合病院であるから、その情報を提供して欲しい。また、「大町病院の良さ」というものは必ずあるので、そういったものを医療機能を含めて、分かり易く病院ホームページや各マスメディアを利用して積極的に広報して欲しい。なぜなら大町病院がないと困るという住民は多くいるからです。

職員の意見

◎病院便りだけでなく、他のマスメディアを利用して病院の実態の公表と市民のニーズの吸い上げを行う体制をつくって欲しいです。(臨床検査室)

◎病院に勤務する医師の専門性の広報活動や病院受診時の目安になるような広報誌を作成してはどうかと考えます。(放射線室)

◎接遇を始めとする病院の外面的な能力を始め、病院のもつ他院には負けないというものを作りたいと思います。(医療情報部)

病院の対応として 新年度は年6回大町病院便りを発行することを目標に設定し、大町以北の地域の皆さんへも配布できるように準備を開始しております。

また、大町病院便りの内容を充実し、改善策や良い面のPR活動を行うとともに、「皆様の声」回答等のコーナーを充実する等、情報発信に努めて参ります。

併せて、「大町病院への手紙」の病院便りへの組み込みを検討したいと考えております。皆様からいただいた、ご意見やご要望等は病院便りや病院ホームページで公表し、地域住民の皆様へ効果的に、病院の理念や方針、医療機能の発信の方法を検討し実施して参ります。(庶務課)

●その他

皆様からのご意見・ご要望 悪意のある医療費滞納者に関してどのような対応を行っているのでしょうか。場合によっては実名の公開などを行う必要もあるのではないのでしょうか。

また、大町病院は玄関口の雰囲気が悪く、待合場所も通路と一体化されているため改善できないものなのでしょうか。

病院の対応として

◎本年度より、本格的に法律事務所へ委託した債権回収業務が一定の成果を見せており、連絡の取れない未納者へは裁判所からの支払督促実施のため、申し立て準備を進めております。このような法的な手続きを用いながら、未納者への対応を今後も更に実施して参ります。(医事課)

◎当院はほとんどの診療科が待合と一体化されており、ご迷惑をおかけしていると思いますが、構造上やむを得ないことを、ご理解いただきたいと思ひます。尚、病院入り口付近の照明と合わせて、耐震補強工事の実施の際に、より効果的な方法を各部署と協議のうえ改善して参りたいと考えております。(庶務課)



▲11/13(金) 社地区



▲11/16(月) 美麻地区



▲11/19(木) 常盤地区



平成21年度 総合防災訓練を実施しました

11月14日の土曜日に総合防災訓練を行いました。

今年の訓練想定は当地域北部に震度6以上の地震が発生。地震により市内を中心に死傷者多数発生、当院に被災者が救急車等で来院するとのことで行われました。

今回は、通報・消火訓練のほか、長野県包括医療協議会大北支部のトリアージ訓練も同時に実施され、市内各地から搬送されてくるトリアージされた患者を迅速に受け入れられるよう様々な訓練を行いました。

緊急時における院内対策本部と包括医療協議会医療本部との連携を深め、万が一の事態に備え迅速かつ冷静に対処できるよう今後も実施していきたいと考えています。



△消防隊の指導による消火訓練



△トリアージ
患者の受け入れ

患者番号	氏名	性別	年齢	病歴	受傷状況	処置内容	備考
1	田中	男	70	高血圧	左足指	処置済	入院
2	山田	女	65	糖尿病	右腕	処置済	入院
3	佐藤	男	45	心臓病	左腕	処置済	入院
4	鈴木	女	55	高血圧	左腕	処置済	入院
5	田中	男	47	糖尿病	左腕	処置済	入院
6	山田	女	52	高血圧	左腕	処置済	入院
7	佐藤	男	68	高血圧	左腕	処置済	入院

患者情報の集約▷

院内クリスマス会



昨年の12月21日に院内クリスマス会を開催しました。
午前中はサンタクロースとトナカイが病室を回り、
入院患者さんにクリスマスカードを手渡しました。



午後はクリスマスコンサートを開催。今年はグルーポ・ビエントさんをお招きし、オリジナルソングを含めた10曲を披露していただきました。患者さんや付き添いの方、病院職員がお2人の魅力的な歌声に、聞き入っていました。後半にはクリスマスソングなどをみんなで歌って楽しみました。



グルーポ・ビエントさんは、中村雅彦さん（ギター＆ボーカル：写真右）と吉良健一朗さん（キーボード＆ボーカル：写真左）のデュオグループ。

地元で活躍していた「わさびーず21」の元メンバーであり、作詞・作曲の音楽活動を始め、NHK文化講座の講師、キーボード教室を主宰するなど多方面で活躍なされている方々です。



緩和ケア通信

—No.5—

大町病院における 緩和ケア相談

緩和ケア認定看護師 柳澤 由美子



つかの間の陽射しに身体が温まるのを感じながらも、冬の厳しさを感じています。皆様は、いかがお過ごしですか？

前回の緩和ケア通信では、『がんの痛み止めに伴う副作用について』お話しさせていただきました。

特に、オピオイドが処方されてからの代表的な副作用として、眠気・嘔気・便秘がありました。眠気は、お薬に馴れるまで三日ほど現れますので、眠気が辛いと感ずるようであれば、医師にご相談下さい。

嘔気は、二週間ほど現れます。そのため、オピオイドの処方と共に吐き気止めが処方されます。嘔気がなくても予防的に服用する事で、症状を和らげることが出来ます。

便秘は、オピオイドを内服することで起こります。オピオイドには、腸の動きを緩慢にする作用があるため、常に下剤でコントロールする必要があります。

さらに、オピオイド以外の鎮痛補助薬と呼ばれるお薬を使用する場合には、眠気・精神症状・

便秘・口渴等の症状を観察します。副作用の状態をみて、お薬の減量や中止の検討も必要になりますので、副作用が辛いと感じるときには医師にご相談下さい。今回は、がん患者さんの症状について当院の医師に原稿を依頼する予定でしたが、都合により『大町病院における緩和ケア相談』について、お伝えしたいと思います。(誠に申し訳ありません)

当院における緩和ケア相談は、次の①～④について対応させていただきます。

- ① 身体症状に関する相談、② 心の不安や悩みに関する相談、③ 社会的な事情に関する相談、④ その他の辛さに関する相談を受け付けております。詳しいパンフレットは、病院内入口正面の、地域連携相談窓口にてご用意させていただきます。

①の身体症状に関する相談には、痛みに関する相談から身体の不調に関する相談まで様々です。

がんが診断され、手術や放射線治療の後に、片側の腕や足の付け根がむくみっぽいことに気づいた方がおられるかもしれません。また、手術後何年も経って

から、むくみが始まったことに気づく場合もあります。その際のむくみは、体調によって変化するもので、むくみを感じる日とそうでない日を繰り返すことがあります。このような特徴のむくみをリンパ浮腫と呼んでいます。

リンパ浮腫の多くは片側の付け根より発症します。つまり、何らかの形でリンパ液の流れに障害を生じた場合に、原因となるリンパ節の近くからむくみが始まって、徐々に手先や足先に向かって進行していく症状がみられます。

がんによって手術や放射線治療を経験された方は、驚かれるかもしれませんが、腕や足の付け根がむくみっぽいと感じる状態(発症)には個人差があります。過去に手術を受けていて、現在症状のない方でも、リンパ浮腫の症状が起こる可能性は十分ありますので、不安がある方は、緩和ケア相談窓口(水曜日のみ予約制)までお問い合わせ下さい。詳しいお話とパンフレットをご用意してお待ちしております。

②の心の不安や悩みに関する相談では、気持ちがあつとつと

してしまった時などに、少しでもその辛さが和らぐように心掛けながら、お話しさせていただいております。

③の社会的な事情に関する相談では、医療福祉相談員と共に、より良い社会資源などについて、お話しさせていただいております。

④のその他の辛さに関する相談は、ご本人はもちろん、ご本人を支えるご家族の悩みや辛さなど、お話を伺わせていただいております。

当院に受診している方で、緩和ケア相談を希望される場合には、右記までお問い合わせいただき、相談日をご予約いただきたいと思います。

また、緩和ケア相談へのご要望がありましたら、外来や病棟に設置されている「お客様の声」へご投函いただきたいと思います。

●ご質問・ご要望は…

〒398-0003

大町市大町3130番地

市立大町総合病院

地域医療福祉連携室まで

TEL 22-6851

FAX 22-6852